

情報学部に入學した皆さんへ

皆さん、入学おめでとう。名古屋大学情報学部によろこそ。情報学はまだ新しい分野で、この情報学部も3年経ったところです。これから一緒に情報学を創りあげていきましょう。

さて、名古屋大学駅や大学構内で目にしたかもしれませんが、私たちは皆さんに「尖った情報技術で やわらかな人間社会をつくろう」というメッセージを贈りました。今日は、このメッセージの意味について、少し私の思いを述べさせていただきます。

皆さんにはまず、尖った情報技術とその関連分野について学んで欲しいです。ただし、残念ながら1年から最先端のAIやIoTばかりを学ぶわけではありません。尖った技術を持った大先輩の話聞きつつも、最初の3年間は、全学的な教養科目や、情報学の基礎科目や専門科目、実験や演習など、まだまだ学ぶべきことがたくさんあります。4年になり、研究室に配属するようになると、ようやく少しずつ前人未踏の世界に入っていくことになります。尖った部分をさらに尖らせる、それを応用する、情報が人間や社会に与える影響を追究するなど、それぞれの専門分野に分かれ、研究を進めていくことになります。既知の知識を学んでいるときには、これまでと同じような勉強かもしれませんが、未知の世界に入っていくと、先生も知らないことですから自分で切り開いていくことになります。そして、皆さんが社会に出て、最先端を切り開き、新しい価値を創り出す人材に育っていくことを期待しています。

AIやSNS、XaaSなど、いまや情報は社会を動かす力を持つようになりました。情報学を身につける皆さんの可能性は無限です。その中で私たちは「やわらかな人間社会をつくろう」ということばを選びました。いろいろな意味が込められていますが、私は次のように思っています。人間はもともとやわらかな存在です。これにもいろいろな意味がありますが、例えば、血圧や血糖値などの指標をみると、まわりの環境変化に応じて上がったり下がったり、他の指標とのバランスの中で、やわらかに調整されています。そのことは、人間がつくる社会も、社会を取り囲む環境も同じであるはずですが、ところが、人間が造ったものや社会は、時としてバランスを崩して元に戻らず、それがまわりの環境や人間自身にまで不可逆的な影響を与えている気がします。そのことは **Well-being** な状況とは思っておりませんが、他の様々な学術分野と合わせ、情報の力を結集させることにより、いつかはやわらかな調和の取れた状態にもっていけるのではないかと、そんな風に考えています。

君は情報学に入り、どのような専門家になり、世の中に貢献したいですか？

2020年4月1日

名古屋大学情報学部長 枝廣 正人